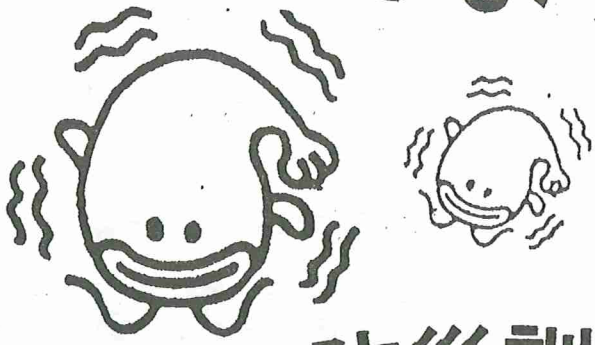
衣川台なまず通信



第　１　６　号
‘０９年２月１２日 発行
衣川台 自 主 防 災 部

今年度最後の 防災訓練 おわる！！

第３回防災訓練は安否確認から始まり、第１避難場所（南公園）に集合し、仰木の里東小学校まで歩きました。今回は衣川台が模擬訓練も行いました。本当にご苦労様でした！！

参加者人数

安否確認参加人数	211 人
南公園	132 人
仰木の里東小学校	120 人
防災会総合訓練	100 人

参加者の声

Aさん：　仰木の里東小での消火実演が大変盛り上っていました。地域の消防団や体験参加者の放水で【火】の的が落ちるたびに歓声があがっていました。観客気分で見学していましたが、実際に仰木の里に火災が発生したとき、仰木の里消防団の活躍で類焼が最小限にくいとめられたと聞き、地域防災の大切さを痛感し、また日頃から訓練をつまれていることに感動しました。

Nさん：　非常食の五目おこわのおにぎりや、炊き出しの豚汁をいただきました。
“おいしかった～！”

Sさん：　ホースをころがしたり、伝令したりとおもしろい体験でした。重いホースをかついで走ったりするのは体力が勝負ですね。

Yさん：　訓練にはいつも参加しています。地震に対する備えも少しずつ出来てきました。今回は避難の確認もできました。はじめて参加された人もいてよかったと思います。

Wさん：　仰木の里には行ったことがないので一度ルートを知っておこうとはじめて参加しました。あの避難経路は**坂や階段が急できついですね！！**
年を取ったらとても無理です。

高島発 第3回阪神・淡路大震災メモリアルイベント

私たちも1.17は忘れない

～あれから14年、この日を記憶し、「減災」を誓う～

参加者募集

「希望の灯り」と「避難所体験オールナイト」

命を守る「知識」と「備え」を一晩で体験しよう

避難所での仮眠体験、防災グッズが揃うゲーム、災害への備えをクイズで学ぶ…など

日時 2009年1月17日(土)・18日(日)

場所 新旭武道館・湖西中学校グランド

参加者：　原田隆司　　青谷達雄　　岡田融　　岡田緋佐子

このような機微に触れるタイトルに惹かれて、衣川台から４名がこのオールナイトイベントに参加しました。

会場にあたる新旭地域は名だたる寒冷地であり、周辺は５０ｃｍにも及ぶ積雪の中で開催されました。

この行事は女性が中心となって運営する「たかしま災害支援ボランティアネットワーク“なまず”（代表：太田直子さん）」が主催し、県や市の後援を得て、地域のボランティアの皆さんの参加・協力のもとに行われました。今年で実施３回目になるとのことでした。

当日は、滋賀県内だけでなく、愛知県や能登半島で罹災した石川県のグループなど、遠方からも参加され、ＡＢＣ放送のＴＶカメラも入って、熱気あふれる雰囲気でした。

タイムスケジュール

21:00

オリエンテーション

１．イベントとルールの説明：　（災害時の状況を想定するため）

体育館の、トイレ（戸外の仮設トイレ利用）・水道（消毒液で）

スリッパは利用禁止に！！

２．スペース環境づくり

寒さ対策にはアルミシート・使い捨てカイロ・筒状のフリース材を輪切りにしたネックウォマーやレッグウォマー・紙おむつ〈座布団用〉などが配られ、とても重

宝しました。

3．避難生活の役立ちアイテムの紹介

・古新聞を使ったスリッパ・ザブトン　　・牛乳パックの食器、

・ダンボールの便器　　・空き缶のローソク立て

・針金のハンガーとアルミホイル → たちまちフライパンに変身

・ご飯のいろいろな炊き方など・・・　次々とアイディア用品が紹介さました。

工夫すればどんな廃材でも立派に活用できることに感心、参考になりました。

22:00　映画「ありがとう」を上映

平穏な日常生活を突然襲い、全てを奪った阪神淡路大震災。そして焦土と化した町から立ち上がる人々を舞台に、実話に基づく壮絶なストーリー。

「人の命、生きること、助け合い、思いやり」とは何かを、問い直す感動の作品で、震災場面などはどのように撮影したのかと思うぐらいド迫力の大作ドラマでした。

0:00　クイズとゲームで命を守る

全200問

「防災・減災・避難・情報の伝達」などなど・「備えと構え」に係わる、クイズやゲームがグループ対抗で行われ、とても盛り上がりました。

楽しみながら命を守る知識を学びました。

3:30　仮眠の時間

即製のザブトンの上にダンボールを敷き寝袋や毛布にくるまりました。

消灯され寒さの増す中で、救急車のサイレンの音や子供の泣き声、その他の喧しい騒音がテープで流され、疲れて眠りたいのに神経だけが高ぶりました。

この状況で「あなたは眠れますか？」という問いかけです。

5:00　「希望の灯り」灯籠点火

深い雪の中１.１７をかたどった１０００個以上のペットボトル灯篭。

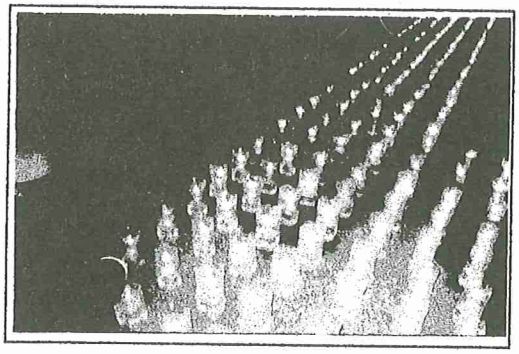
「希望の灯り」と名づけられたこの灯りは、奪われた全ての命と生き残った人々の思いを結ぶものとして、それぞれが気持ちを込めて順次点火。闇の中に光が浮かび上りました。

5:46　追悼の時間

１４年前のこの日この時刻、６４３４人の尊い命が奪われた阪神淡路大震災。

鎮魂の鐘が鳴り響くなか全員黙祷。

亡くなられた方々を悼み、この日を風化しないよう改めて記憶し、今後予想される大地震への備えに思いを馳せました。



あたたかい炊き出し

このあと、２００人用の大鍋に熱い豚汁やぜんざい、温かいご飯に卵を添えた惣菜などの炊き出しがあり、気持ちまで温まりました。抽選会などを経て、全員が減災の誓いを唱和し「神戸の歌」の合唱を以って解散となりました。　（８：００）

充実したタイムスケジュールで進行し、意義深い体験と教訓が得られたこのイベント、行き届いた企画・実行に当られた、主催者の方々に心から敬意を表しながら体験記とします。　（このハイライトは１／19 夕方 ABC TV で放映され、衣川台の参加者も映っていました）　（ 岡田　融 ）

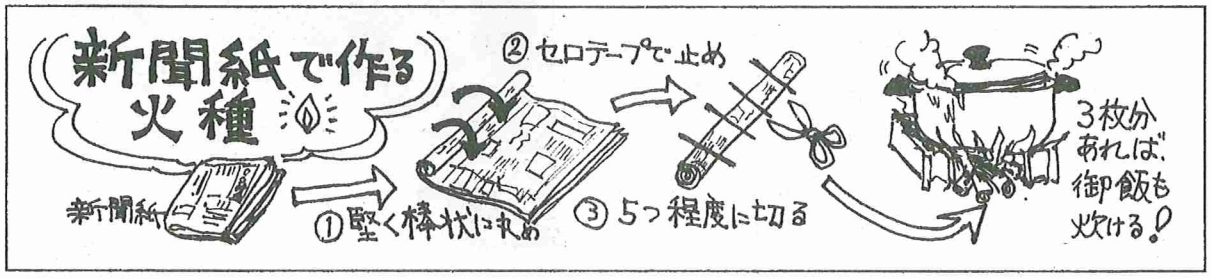
「避難所体験オールナイト」に参加して

新旭武道館の周りには積雪もあり、館内は底冷えする寒さの中で 21:00 より始まった。ストーブは数台あったが、天井の高い館内では暖かさはぜんぜん感じられない。

プログラムが仮眠タイムに入り、フロアーの上にシート・新聞紙・段ボールを敷き寝袋の中に入りやっと寝られると思いきや、すぐさま「オギャー・オギャー・――」と赤ん坊の泣き声　泣きやんだと思えば　今度は「ピーポー・ピーポー・――」と救急車の走る音それが終われば「ゴーゴー・ドンドンー・――」「余震です余震です」の放送、「眠いのにくそ―」と胸の中で怒りがこみ上げる。そんなことが幾度かくり返された時、私の気持ちの持ち方が変わったのを感じた。赤ちゃんの泣き声は愛らしく思え、救急車の音もこの人が助かるようにと、余震の音には負けるものかと思えるようになった。そしてほんの少し仮眠ができた。そうだ！！ここに集まっている人はみんな仲間なんだと思える自分がいた。

（ 青谷 達雄 ）

小さな体験から想像力を働かして防災を考える

今回のイベントに参加して多くのことを学びました。新聞紙、牛乳パックやゴミ袋が避難生活でいかに役に立つかを教えてもらいました。また遠く石川県（能登地震の被災者）や愛知県のボランティアの方々も来ておられ、ボランティア同士の交流が深まっていることを知りました。一番印象に残ったのは、冷たい体育館の床の上での仮眠の時間を過ごしたことです。テレビなどで避難所の様子を見て、想像はしていたのですが、実際に体験してみると大変さがよく判りました。一睡もできませんでした。

防災で重要なことは、想像力を働かせて起こるかもしれない場面を想定し、どう対処したらよいかを考えておくことであるといわれています。今回の小さな体験を通じて感じたことをこれからの防災活動にどう活かすか、課題として考えていきたい。　（原田 隆司 ）